

沢根スプリング 4

沢根スプリングは2015年5月に設立以来50周年を迎える。社長の沢根孝佳は、50周年を無事に迎え、次の節目である100年を見据えてさまざまな施策を打っている。その一つが事業継続計画（BCP）の見直しと対策強化だ。本社工場は沿岸部から近いため、震災時に津波の影響が心配される。静岡県が公表した震災時の被害予想では本社は大きな被害は想定されていないものの、沢根は「社員と地域住民のため、見直すことにした」と説明する。

工場棟建て直し

15年までに老朽化した平屋の工場棟を現本社と同じ場所建て直し、堅固な鉄骨造り3階建ての工場を建設する。

節目の50周年

1、2階にバネの生産設備を配置し、3階を事務所として利用。屋上を社員や地域住民の緊急時の避難所を使う計画だ。屋上には変電設備など重要な設備や装置も移設し、震災時の被害を最小限に抑える。総投資額は約1億円になる見込みだ。



社員を幸せにするのが目標...と沢根社長

取引先に安定供給

さらに、兵庫県と大阪府長野県に生産拠点を持つ同業他社と緊急時の生産相互補完に関する協定も結んだ。中国の合弁会社とも、生産補完体制を構築した。これにより被災して自社の生産が滞っても、安定して取引先に製品を供給できる。沢根が経営において最重要視するのが社員の幸せだ。沢根は「当社の目的は働く社員を幸せにすること。業績拡大も利益もそのための手段だ」と言い切る。赤字知らずで持続的な成長

長を続ける同社だが、社員に負担をかけて利益を出している訳ではない。同社の有給休暇の取得率は80%を超えており、全国平均の約50%を大幅に上回る。「車のハンドルも遊びがあるから運転しやすい」（沢根）と、ゆとりある『80%経営の実現』を社内外で公言している。年度初めには分厚い経営計画書を毎年、社員に公開する。公開し始めて20年目の12年度は65%に及んだ。さらに毎月、50人超いる全社員参加の会議を開き、詳細な経営情報を社長自ら説明する。

サプライズ

会社の状況をオープンにしている沢根だが、実は社員に秘密にしていることもある。14年3月に日本武道館でのライブを控えたプロの女性シンガー・ソングライターのカドジユンに依頼して、会社のイメージソングを作ったのだ。商業ベースのアルバムにも収録される予定のこのイメージソングは、一般的な社歌とは違う爽やかな曲だ。「50周年の記念式典でお披露目しようか」と構想を練る。

同社の経営理念は「自ら力での考え、作り、売るを推進する」ことだ。社員を幸せにすれば自社の商品を愛し、売るために考えて作る人が集まると沢根は信じている。（敬称略）
（この項おわり。浜松・松本直樹が担当しました）

80%のゆとり経営を実践

つ勝
中小企業のものごと